

第2回 講義の感想

前回の女性キャリアパスと大きく違ったことは、講師の先生方の年齢層が広がったことだ。笹本先生や中村先生のお話に出てきた大学紛争のことは、今の時代しか知らない私達にとって想像が難しいけれど、先生方の人生に大きく影響を与えた出来事であることがよく分かり、興味深くお話を伺った。

年齢が近い稲垣先生のお話は、過去のことを話していらっしゃる時も、自分がだいたいその時何をしていたかを憶えていたので時には共感しながら伺うことができた。

酒井先生は、他の先生方のように **chronology** のようなものは用いておられなかったが、ご自分の人生が「今」の研究に詰まっているのだなという印象を受けた。

研究とは、一つの専門を究めることでもあるけれど、先生方のお話を伺うと研究者は幅広い興味・関心が無いと務まらないのでは、と思わせられる。

例えば、笹本先生は大学時代、原始仏教にも興味をお持ちだった。

学部3年生の頃ドイツ語の本を輪講でお読みになったこともあるそうで、その頃培われた広く、深い教養は現在の研究にももちろん反映されていることだろう。

また、稲垣先生は、災害を専門とされるため、ご自身が修めた建築学の分野のみならず地学、社会学、情報学などの研究者と一緒に勉強会をされることが多いとおっしゃっていた。

学際的研究がもてはやされる昨今の風潮を考えても、様々な分野に興味を持つことは研究者に求められることなのかも知れないと思った。

中村先生が進路を決められた時代は、教職が女性が活躍できる唯一の職業だったという。

そして、そういった時代は終わった。

少しずつ就職活動を始めているが、今のところ「女性だから」ああだ、こうだ、という扱いを受けたことは一度も無い。

しかし、今のような時代が幸せなのか、不幸せなのかは、実際働き出してみないと分からないと思う。」

別の受講者が言っていたように、女性キャリアパスは先生の研究＝「人となり」を教えていただける、貴重な講座である。これからも様々な分野で活躍する先輩方のお話を聞き、自分で自分の将来について考えていきたいと思う。